



日本銀行熊本支店

支店長 田原 謙一郎

お札の肖像

最初に簡単なクイズを。日本のお札に最も多く登場した人物は誰でしょう？
答えは聖徳太子で計7回（戦前2回、戦後5回）。聖徳太子が肖像の一万円札や五千円札は、戦後発行された日本銀行券としては、発行期間が最も長く、年長の方々なら、覚えておられるだろう。

聖徳太子の肖像は、1930年（昭和5年）に発行が始まった百円札以来、いずれも発行当時の最高額のお札に採用されていて、国民の間では、「聖徳太子＝高額のお札」というイメージが浸透していたようだ。また、戦前の日本銀行券の肖像だった人物は聖徳太子を含めて6名いるが、GHQ（連合国最高司令部）が1946年（昭和21年）、かつて日本政府が決定した「肖像に相応しい人物」について、「軍国主義的な色彩が強いため、肖像として使用することを認めない」とした。ただし、聖徳太子だけは、例外となり、戦後の日本銀行券の肖像にもなった。「和を以て貴しとなす」と述べた聖徳太子は、平和主義者の代表であるとの主張が通ったと言われている。

そもそもお札に肖像が使われる理由として、大きく2つ挙げることができる。第1が偽造防止。私達は人の顔を見分けることに慣れているため、銀行券の肖像がほんの少しでもずれたりぼやけたりしていると違和感を持つ。これが偽造防止に繋がる。第2が親近感を持っていただくため。その国で良く知られている政治家、文化人、有名人などを描き、その人物の業績などを再認識して親近感を持っていただくとともに、銀行券自体についても認識を深めていただく狙いがある。

お札の肖像の人物選定に明確な基準があるわけではないが、いくつか注意が払われている。極力実在の人物で、業績があり知名度も高い、親しみやすいなど、国民から尊敬され日本を代表するような人物であること。そして、偽造防止の観点から、簡単に複製できず、かつ人の目を引く特徴のある顔であることなど

以降は会員専用ページにて公開しております。

ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページよりアクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

（入力は数分で終わります）

[会員の方ははこちらから](#)